



農業を通じてリーダーとなる人を育てる 協力隊で得た経験を実習生の指導に活かして

佐藤 高央さん 株式会社農園たや スタッフ

Takao Sato

困っている人の力になりたい。その思いで協力隊を志し、農業の道へ進んだ。

ポリビアで野菜栽培を指導しながら、住民たちに本当に役に立つ支援は何だろう、と考えた。

今は福井県の野菜農園で、技能実習生と共に働き、彼らの将来を視野に入れた指導を心がけている。

世界で働くことを志し 協力隊参加のために農業を

「農業もボランティア活動も、青年海外協力隊に参加したことが始まりでした」

佐藤さんが世界で働くことを意識したのは中学生の時、テレビで一休上人の修行中のエピソードを見たことがきっかけだった。



「一休上人は琵琶湖で座禅して、自分の苦しみはあまりにも小さいと悟り、もっと苦しんでいる人々を助けるために身を捧げよう、と決意するんです。ちょうど高校進学を前にして将来何をしたいか悩んでいる時期だったので、ちっぽけな自分だけど世界中で困っている人のために働きたい、と思いました」

大学では国際文化学科に進み、パキスタンでの現地研修も受けた。協力隊の募集説明会に出席したところ、参加するには専門的な知識や経験、技術が必要だと知った。

「それなら世界の食料を支える農業を勉強しよう、と在学中にインターンシップ制度を利用して、長野県の農家など6カ所で農業を体験しました。卒業後は

日本実践学園で農業を1年間勉強し、23歳の時、協力隊に応募したんです」

2010年1月、佐藤さんは野菜栽培隊員としてポリビアに赴任した。

ハウス栽培に堆肥づくり 野菜栽培に奔走

ポリビアのアンデス地方は、4,000mの高地にアルティプラーノと呼ばれる平原が広がっている。佐藤さんが配属されたオルロ県クラワラデカランガス市もその中にある。住民の大半が先住民で、現金収入はリヤマやアルパカなどラクダ科の家畜から得るものに限られている。

現金収入を増やすため野菜栽培を指導することが佐藤さんの任務だが、寒

